(様式第3号)

企業•団体名(

株式会社キッツ

)

SDGs達成に向けた具体的な取組(要件2) 【R7.10.29変更】

| 項 | カ | | | 1 | 53 AL AL A. 72-A0 | | | | | | ゲット)関連 | | |
|------|---|--------|--------------|-------------|--|---------------|-----|-------------------|-------------------|--|--------------|--------|----------------------|
| 目 | | 取組 | 【非該当】 の場合 | 【予定】 の場合 | 具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) | 1 2 | 3 4 | 5 6 | 6 7 8 | 9 10 | 11 12 13 | | |
| 項目番号 | ן | レベル | 選択入力 | 選択入力 | (【非該当】を選択した場合こちらには理由記載) | 1 2 1.44.4 | -₩÷ | © © © | 7 6 6 | 9 :::::::::::::::::::::::::::::::::::: | 11 mm | 15 ttm | 16 11 17 18 |
| 1 | 【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している | 基本(必須) | | | ・人権尊重に関する行動規範を定め、ホームページで公開している。 ・社員の人権意識や認識状況を把握するため、人権アンケートを定期的に実施している。 ・多様な性に関する相談窓口を設置し、誰もが安心して相談できる環境を整備している。 | | | 5.1 5.2 5.5 | 8.5 8.7 8.8 | 10.2 10.3 | | | 16.1 16.2 16.7 |
| 2 | 【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・ 相談体制を整備している | 基本(必須) | | | ・キッツグループで働く全ての社員が相談・通報できる「コンプライアンス・ヘルプライン」を設置している。 ・ハラスメント行為のない風通しの良い職場づくりを推進するため、ハラスメント防止研修を実施している。 | | | 5.1 5.2 5.5 | 8.5 8.8 | | | | 16.1 |
| 3 | 【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる | 基本(必須) | | | ・労働関連法規の遵守を徹底するとともに、労使一体となった長時間労働の抑制やサービス残業の禁止、年次有給休暇の取得促進に取り組んでいる。 | | | | 8.5 8.8 | | | | |
| 4 | 【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している | 基本(必須) | | | ・外国人労働者に対して均衡を配慮した処遇を行うとともに、日本語習得や生活面のサポート等、働きやすい労働環境の整備に取り組んでいる。 | | 4.4 | | 8.7 8.8 | 10.2 10.3 | | | |
| 5 | 【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んで いる | 基本(必須) | | | ・「キッツグループ安全衛生基本理念」及び「キッツグループ安全衛生基本方針」を定め、労働安全衛生の推進体制のもと、安全で快適な職場づくりに取り組んでいる。 ・長坂・伊那・茅野の各工場において、労働安全衛生マネジメントシステム「ISO45001」の認証を取得している。 | | 3 | | 8 | | | | |
| 6 | | 基本(必須) | | | ・本社及び長坂・伊那・茅野の各工場に常勤の保健師・看護師による相談窓口を設置し、社員の心身の健康をサポートしている。 ・毎年ストレスチェックを実施し、早期発見と予防に向けた取り組みを行っている。 | | 3 | | | | | | |
| 7 | 働 【ダイバーシティ経営】 - 名様なしせ(女性)以及し、陰がいき、高齢を第)が、上小に活躍できる | 基本(必須) | | | ・DE&I推進において4つの個別課題を設定し、それぞれの目指す姿を実現するため、女性管理職比率や男性育児休業取得率などのKPIを定めている。 ・次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」を取得している。 ・「PRIDE指標2024」においてゴールドの認定を取得している。 | | | 5.1 5.5 | 8.5 | 10.2 | | | |
| 8 | 【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している | 基本(必須) | | | ・2024年に新たな人財戦略を公表し、個々の施策を実践するための基準となる方針として、「人財育成方針」を定めている。 ・2024年にスキルや技術の習得・伝承・評価するための仕組みとして、Takumi(高度専門職)制度を新たに設けている。 ・2024年に職掌・職種別教育、eラーニング、通信教育、語学教育など、希望する社員が誰でも学ぶことができる教育体系に再構築をしている。 | | 4 | 5.5 | 8 | 9 | | | |
| 9 | 【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している | 基本(必須) | | | ・同一労働同一賃金の原則に基づいた対応を行っている。 | | | 5.5 | 8.5 | 10.2 10.3 | | | |

| 10 | | 【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | ・「キッツグループ健康経営宣言」及び「健康経営取り組み 方針〜5つの柱〜」を定め、産業医、心理カウンセラー、健 康保険組合と連携した推進体制のもと、生活習慣病やメン タルヘルスなど、社員の健康管理・増進に取り組んでい る。 ・「健康経営優良法人」に4年連続で認定されている。 | 3 | 8 | | | | |
|----|----|--|---------------|---|-----|------------|--------|--------|------|--|
| 11 | | 【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる | 基本(必須) | ・環境長期ビジョン「3ZERO(トリプルゼロ)」の重要課題である「環境負荷ゼロ」に基づき、埋立処分率をKPIとして掲げ、ゼロエミッションを進めている。 ・国内グループ会社の廃棄物担当者に対して定期的に教育を行っている。 | | | 11.6 | 12 | 14.1 | |
| 12 | 環境 | 【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している | 基本(必須) | ・環境長期ビジョン「3ZERO(トリプルゼロ)」の重要課題である「CO ₂ ゼロ」に基づき、2030年度までに2013年度比90%以上のCO ₂ 削減、2050年度までにカーボンニュートラルを目指している。 -2022年より国内主要製造拠点で使用する電力の100%を再生可能エネルギーに切り替えている。 | | 7.3 | | 1 | 3 | |
| 13 | | 【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる | 基本(必須) | ・環境長期ビジョン「3ZERO(トリプルゼロ)」の重要課題である「CO ₂ ゼロ」に基づき、当社及び国内連結子会社における CO ₂ 排出量を把握し、環境安全衛生委員会で削減目標の達成状況を進捗管理している。 | | 7.2 7.3 | 1 | 2.4 13 | 3.3 | |
| 14 | | 【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な 使用に取り組んでいる | 基本(必須) | ・2000年に化学物質の成分や法規制、安全データシートなどの基本情報やラインごとの使用状況を管理する化学物質管理システムを構築し、本システムに登録した化成品情報をもとにPRTR対象物質の集計を行っている。 | 3.9 | 6.3 | 11.6 1 | 2.4 | | |

| 項 | カ | | | |] | = 11 11 11 = 1.15 | | | ร (17ゴール | | | | | | |
|------|---------|---|---------------|--------------|-------------|--|------------------|-------------------------------|---|--------------|------------------|-----------------|--------|-------|------|
| É | テ | チェック項目 | 取組 | 【非該当】 の場合 | 【予定】 の場合 | 具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) | 1 2 | 3 4 5 | 6 7 | 8 9 1 | 0 11 | 12 | 13 14 | 15 1 | i 17 |
| 項目番号 | テゴリ |) エクク 項 目 | レベル | | 選択入力 | (【非該当】を選択した場合こちらには理由記載) | 1 III. 2 III. 31 | 4 **** 5 *********** © | 7 : : : : : : : : : : : : : : : : : : : | 9 mm 10 m | 11 :::::: 12 | 2 :::::: COO | ₩ | 15 11 | Ø |
| 15 | | 【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している | 基本(必須) | | | ・自然と共存するモノづくり工場を目指し、2025年に「工場環境価値向上タスク」を発足し、生物多様性保全に向け、保有する緑地や山林の情報の収集・活用などを進めている。 | | | 6.6 | | | | | 15 | |
| 16 | | 【3 Rの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる | 基本(必須) | | | ・廃棄物を出さない、持ち込まない(リデュース)、再生する (リユース)、再資源化する(リサイクル)を基本の考え方と し、発生量の調査・分析をもとに削減改善及び再利用化に 取り組んでいる。 ・「廃棄物管理システム」により、廃棄物の発生から最終処 分まで適正な処分が行われるよう管理している。 | | | | | | 13 | 14.1 | | |
| 17 | 環境 | 【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・環境長期ビジョン「3ZERO(トリプルゼロ)」の重要課題である「環境負荷ゼロ」に基づき、2030年ウォーターニュートラルをKPIとして掲げ、節水、循環、涵養を進めている。・地下水を有効利用するための水処理装置を開発し、茅野工場内にあるKITZグルーブイ/ベーションセンターにて設置している。非常用電源と組み合わせることで、災害時にも安心・安全な水の供給を行うことができる。 | | | 6.4 6.6 | | | | | | |
| 18 | | 【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している | チャレンジ (任意) | | | ・国内外の主要生産拠点でISO14001を取得している。 (国内10拠点、海外11拠点) | 3 | 9 | 6 7 | | | 12 1 | 3.3 14 | 15 | |
| 19 | | 【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している | チャレンジ (任意) | | | ・「環境・安全衛生ダイジェスト」をホームページおよび冊子 形式で発行・公開をしている。 | | | | | 1 | 2.6 | | | |
| 20 | | 【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・2022年4月より国内主要製造拠点において使用電力の 100%を再生可能エネルギーに切り替えている。 | | | 7.2 | | | | 13 | | |
| 21 | | 【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・2010年より鋳物砂再生装置を導入し、鋳造工程で発生する廃砂を再利用することにより、新砂の使用量を削減し、資源の有効活用を推進している。 | | | | | 1 | 2.2 | 13 14 | 15 | |
| 22 | | 【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している | 基本(必須) | | | ・「キッツグループ贈収賄防止グローバルポリシー」を制定・公開している。 ・コンプライアンスガイドブックに記載の「キッツグループ・コンプライアンス行動規範」において、贈収賄および腐敗行為を禁止を定め、社内外に公表・周知している。・コンプライアンス教育を実施している。 | | | | | | | | 11 | |
| 23 | | 【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している | 基本(必須) | | | ・コンプライアンスガイドブックに記載の「キッツグループ・コンプライアンス行動規範」において、不正競争の禁止を定め、社内外に公表・周知している。 ・コンプライアンス教育を実施している。 | | | | | | | | 10 |) |
| 24 | | 【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる | 基本(必須) | | | ・コンプライアンスガイドブックに記載の「キッツグループ・コンプライアンス行動規範」において、知的財産の保護を定め、社内外に公表・周知している。 | | | 8 | i.2 i.3 9 | | | | | |
| 25 | 公正な事業慣行 | 【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している | 基本(必須) | | | ・「キッツグループ情報セキュリティ・個人情報保護基本方針」を定め、情報セキュリティ・個人情報保護管理体制のもと、情報活用による価値創造とリスクマネジメントの両面から対策に取り組んでいる。・役員及び社員に対して毎年教育・訓練を実施している。・コンプライアンスガイドブックに記載の「キッツグループ・コンプライアンス行動規範」において、個人情報の保護を定め、社内外に公表・周知している。 | | | | | | | | 11 | i |

| 26 | 【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱って <u>いないこと</u> を確認している | チャレンジ (任意) | ・「紛争鉱物管理基準」規程に基づき、必要に応じて適切 な対応を行っている。 ・「キッツグループグリーン調達指針」において紛争鉱物を 管理対象項目として明記し、社内外に公表・周知してい る。 | | | | | | | | | 16 | |
|----|--|---------------|---|---|---|---|---|----|----|------|------|------|----|
| 27 | 【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態 系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄 防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | ・「CSR調達指針」に基づき、「サプライヤー・ガイドライン」 及び「キッツグループ調達指針」を定め、当社が遵守する ともにお取引先の皆様にも遵守をお願いしている。 ・2022年度よりサプライヤーデューデリジェンスを実施して いる。 | | 5 | 8 | | 10 | 12 | 13 1 | 4 15 | 16 1 | 7 |
| 28 | 【パートナーシップ構築宣言】(R5.9.5~追加) ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表して いる ■パートナーシップ構築宣言サイト: https://www.biz-partnership.jp/ | 基本(必須) | ・「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している。 | 3 | | 8 | 9 | 10 | | | | 1 | 17 |

| 項 | | | | | 1 | | | | 主なSDGs | (17ゴ | ールと | 169タ・ | ーゲ | ット) | 関連コ | 項目 | | \neg |
|-----|-------|---|---------------|--------------|---------|--|----------------|---------|---|----------------|-----------------|---|-------|---------|----------|--------|---------|--------|
| 目 | | エールク 荷口 | 取組 | 【非該当】 の場合 | 『予定』の場合 | 具体的な取組 | 1 | | 4 5 | | | | | | | | 16 أ | 17 |
| 日番号 | | チェック項目 | レベル | 選択入力 | 選択入力 | (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合こちらには理由記載) | 1 00. 84948 | 2 ::: 2 | 4 lille 11 5 lilli 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | 6 ::::: 7 :::: | * ***** **** | 9 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::: | 11 :: | 12 ==== | 13 ::::: | 15 111 | 16 2011 | æ |
| 29 | | 【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している | 基本(必須) | | | ・1989年に日本企業で初めてISO9001を認証取得して以来、ISO9001を基盤に品質マネジメントシステムを構築し、運用している。JIS、高圧ガス大臣認定、PED/PERなど、許認可が必要な製品については、個別の要求事項を取り入れ、対応をしている。 | | 3.9 | | | | | AB | 12.4 | | ~ _ | | 9 |
| 30 | 製品・ | 【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している | 基本(必須) | | | ・「キッツグループ品質理念」を社内外に公開している。 ・創業時からの一貫生産体制による高品質を実現している。 ・世界各国において均一なサービスを提供するため、グローバルなサポート体制を構築、現地対応・解決を基本としている。 | | | | | | 9 | | | | | | |
| 31 | サービス | 【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・「環境開発方針」及び「環境負荷低減評価基準」を定め、環境に配慮した製品を製造している。 ・一般社団法人日本バルブ工業会の「バルブ製品アセスメントガイドライン」に従い、環境配慮バルブ製品の登録を進めている。 | | | | 6 | | | | 12 | 13 | 14 15 | ; | |
| 32 | - | 【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・中期経営計画でターゲット市場として掲げる水素、機能性化学、水処理の各分野を通じて、SDGsが示す社会課題の解決に取り組んでいる。水素事業では脱炭素社会の実現に寄与し、機能性化学分野では医療・医薬の発展に貢献、水処理事業では安全な水の確保を支えている。バルブの供給を通じて、持続可能な社会インフラの構築に寄与している。 | 1 | 2 3 | 4 5 | 6 7 | 8 | 9 1 | 0 1 | 1 12 | 13 | 14 15 | 5 16 | 17 |
| 33 | | 【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している | 基本(必須) | | | ・地下水や土壌への影響を低減するため、2025年より一部の生産ラインでバルブの標準塗料として水性塗料を採用し、VOC排出量の大幅な削減を進めている。 | | | 4 | | | 9 | 1 | 1 12 | | 14 15 | ; | 17 |
| 34 | 地域貢献・ | 【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる | チャレンジ (任意) | | | ・「社会貢献活動基本方針」及び「社会貢献活動行動指針」を定め、推進体制のもと、活動計画や目標値を定め、活動内容をホームページにて公開している。 | | | 4 | | | | 1 | 1 | | 14 1 | ; | 17 |
| 35 | | 【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用(地消地産、地産外商)している | チャレンジ (任意) | | | ・地下水を有効利用するための水処理装置を開発し、茅野工場内にあるKITZグループイノベーションセンターにて設置している。非常用電源と組み合わせることで、災害時にも安心・安全な水の供給を行うことができる。 $\cdot 2022$ 年より CO_2 フリーの信州Greenでんきを導入している。 | | | | | 8 | 9 | 1 | 1 12 | 13 | | | |
| 36 | | 【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している | 基本(必須) | | | ・社長自らが国内外の事業所を直接訪問し、企業理念や 経営計画などを説明し、直接対話を行う「KITZ Group Engagement Forum」を2022年より毎年実施している。 | | | | | 8 | 9 | | | | | | 17 |
| 37 | | 【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構 築している | 基本(必須) | | | ・社長を委員長とする「C&C(クライシス&コンプライアンス)委員会」を設置し、法令及・コンプライアンス違反をはじめとする経営リスクの発生を未然に防止するとともに、発生した危機に対して適切かつ迅速に対応できる体制を構築している。 ・内部通報制度(コンプライアンス・ヘルプライン)を設置し、利用者が安心して利用できる体制を構築している。 | | | | | | | | | | | 16 | |
| 38 | | 【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制 を整備している | 基本(必須) | | | ・サステナビリティ経営を円滑かつ効率的に推進するため、経営企画本部内にサステナビリティ推進グループを設置し、経営に近い組織でESG活動を推進している。 | | | | | | | | | | | 16 | |

| 39 組織体制 | 【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに 及ぼす影響を把握し、適切に対応している(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会 全体) | 基本(必須) | ・ステークホルダーに対し、適時・適切かつ公平な情報開示を行っている。 ・オンライン等を活用し、積極的に対話の機会を設け、建設的な対話によって得られた意見や要望を経営陣にフィードバックし、経営効率と透明性の向上に反映させている。 | | | | | | 16 | 17 |
|---------|---|---------------|---|--|---|---|----|------------|----|----|
| 40 | 【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している | チャレンジ (任意) | ・事業活動に係る想定リスク(全128項目)について「リスクの発生頻度」と「経営に与える影響度」の二軸からリスクの重要性を定期的に判定している。経営会議にて「主要リスク」「重要リスク」を特定し、必要な対策を立案、実施している。 | | | | | | 16 | |
| 41 | 【社会的責任】 ・CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)の考えに 基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取 り組んでいる | チャレンジ (任意) | ・2030年にありたい姿として「テクノロジー/ソリューション」、「事業を通じた環境保全」、「コアビジネス/成長ビジネス」、「多様な人財の活躍」を定め、これらの実現に向けてマテリアリティを特定し、目標およびKPIを設定して取り組みを進めている。 | | | | | | 16 | |
| 42 | 【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している | チャレンジ (任意) | ・事業継続計画(BCP)体制構築をはじめ、防災対策に取り 組んでいる。 | | | 9 | 11 | 13 13.1 | 16 | |
| 43 | 【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている | チャレンジ (任意) | ・後継者育成計画を策定し実行している。 | | 8 | 9 | | | | 17 |

上記以外で設定した取組項目

| 独自に設定したSDGsに資する取組 | 具体的な取組 | 1 | 2 3 | 3 4 | 1 5 | 6 | 7 8 | 9 | 10 11 | 12 1 | 3 14 1 | 5 16 17 |
|-------------------|--------|---|-----|-----|-----|---|-----|---|-------|------|--------|---------|
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

【記載留意事項】

- ・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただけ れば登録が可能です。(今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前の【予定】を選択入力してください。)
- ・【非該当】欄については、「チェック項目」が事業形態上(個人事業主等)、該当しない場合に選択入力し、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
- ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等(※)を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。 (※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、NAGANOもの づくりエクセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、 森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など)
- 〇 この「要件2」は、ISO26000(※1)、RBA(Responsible Business Alliance)(※2)行動規範等を参考に、非財務情報(SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項)について整理し作成
- 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は**黒字**、 間接的(結果として)に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、<u>赤字</u>で番号を記載
- 〇 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載 ※1…組織の社会的責任に関する国際規格 ※2…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定